琉球大学学術リポジトリ

2.平成26年度「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」の概況：URGCC学習教育目標に対応した新項目について

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学教育センター
	公開日: 2018-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 永田, 祐矢, 西本, 裕輝
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41187

Ⅱ．平成 26 年度「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」の概況
—URGCC 学習教育目標に対応した新項目について—

永田祐矢（大学教育センター）
西本裕輝（大学教育センター）

１．調査の目的

平成 26 年度より，「学生による共通教育等科目授業評価アンケート」（以下「授業評価アンケート」）はその内容に URGCC 学習教育目標に関する質問項目が新設された（付録資料 3 の問 24 以降）。実施初年度にあたり，その新設項目の回答状況を報告したい。主として，共通教育等科目の科目区分毎に「原則として含める目標」として，その科目区分に原則的に含める URGCC 学習教育目標が設定されている（table 1）が，科目区分毎のこれらの回答状況を報告したい。

Table 1　科目区分とそれに含める学習教育目標

科目区分	原則として含める目標	含めることを推奨する目標
人文系科目	社会性	自律性 問題解決力
社会系科目	社会性	自律性 問題解決力
自然系科目	問題解決力	自律性
健康運動系科目	社会性	自律性
総合科目	問題解決力	自律性 社会性
琉大特色科目	地域･国際性	自律性 問題解決力
情報関係科目	情報リテラシー 問題解決力	自律性 コミュニケーション･スキル
外国語科目	地域･国際性 コミュニケーション･スキル	自律性 情報リテラシー
専門基礎科目	問題解決力	自律性 専門性
日本語･日本事情	地域･国際性 コミュニケーション･スキル	自律性

２．調査の対象・方法・新設質問項目の内容・回答率等

２．１　調査の対象・方法

本調査の対象者は，平成 26 年度に共通教育等科目を受講した学生全員である。調査は各科目の本年度における最終回に行った。調査の方法は，自記式の集合調査の形態で実施した。

２．２　新設質問項目の内容

「授業評価アンケート」の新設の質問項目は，各 URGCC 学習教育目標において「学生の自己評価」と，「学生からの授業評価」がそれぞれ 1 項目ずつ設定されている。前者は，学生自身がその授業を通して，以前に比べ，その URGCC 学習教育目標に関する行動ができるようになったかどうかを自己評価する項目である。後者は，その授業がその行動ができるようになることを意図して構成されていたかどうかを学生が評価する項目である。今回，例えば，「自律性」に関する前者の質問項目を「自律性（自己評価)」，後者を「自律性（授業評価)」とそれぞれ呼称する事とし，両者を分けて分析した（他の URGCC 学習教育目標に関しても同様である)。また，全ての質問項目の回答は 5 件法（「1：全くそう思わない～5：強くそう思う」）で設定されている。

２．３　回答率等

共通教育等科目の受講者数と回答者数・回答率は table 2 の通りであった。これによると，全受講者数の約 60%が「授業評価アンケート」に回答したことになる。

Table 2　共通教育等科目の受講者数と授業評価アンケート回答率

科目区分	受講者数	回答者数	回答率(%)
人文系科目	5353	2862	53.47
社会系科目	3898	2166	55.57
自然系科目	3352	2291	68.35
健康運動系科目	2368	795	33.57
総合科目	3085	1595	51.70
琉大特色科目	1951	1306	66.94
情報関係科目	1642	1122	68.33
外国語科目	7744	5593	72.22
専門基礎科目	6541	3926	60.02
日本語・日本事情	722	527	72.99
合計	36656	22183	60.52

※受講者数は、単位未修得の者を含む

３．分析

３．１　回答の得点率算出

分析にあたって，回答の得点率を算出した。まず，「1：全くそう思わない=0 点（最小値），～5：強くそう思う=4 点（最大値）」として換算し，各 URGCC 学習教育目標の得点率を算出した。

３．２　結果

３．２．１　共通教育等科目全体の URGCC 学習教育目標得点率について

まず, 共通教育等科目全体における URGCC 学習教育目標の平均得点率は Table 3, Figure 1 の通りであった。

Table 3　共通教育等科目全体における URGCC 学習教育目標得点率の基礎統計量

共通教育等科目全体	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
自律性得点率(自己評価)	2014	19830	61.15	22.62	0.00	100.00
自律性得点率(授業評価)	2014	19835	62.86	22.63	0.00	100.00
社会性得点率(自己評価)	2014	19728	58.61	24.00	0.00	100.00
社会性得点率(授業評価)	2014	19740	58.84	24.26	0.00	100.00
地域・国際性得点率(自己評価)	2014	19732	56.14	25.30	0.00	100.00
地域・国際性得点率(授業評価)	2014	19726	56.84	25.61	0.00	100.00
コミュニケーション・スキル得点率(自己評価)	2014	19815	56.72	26.44	0.00	100.00
コミュニケーション・スキル得点率(授業評価)	2014	19806	57.63	26.88	0.00	100.00
情報リテラシー得点率(自己評価)	2014	19701	60.58	23.85	0.00	100.00
情報リテラシー得点率(授業評価)	2014	19698	60.96	23.95	0.00	100.00
問題解決力得点率(自己評価)	2014	19773	62.04	22.97	0.00	100.00
問題解決力得点率(授業評価)	2014	19732	62.52	23.10	0.00	100.00
専門性得点率(自己評価)	2014	19561	63.93	23.18	0.00	100.00
専門性得点率(授業評価)	2014	19238	65.04	23.29	0.00	100.00

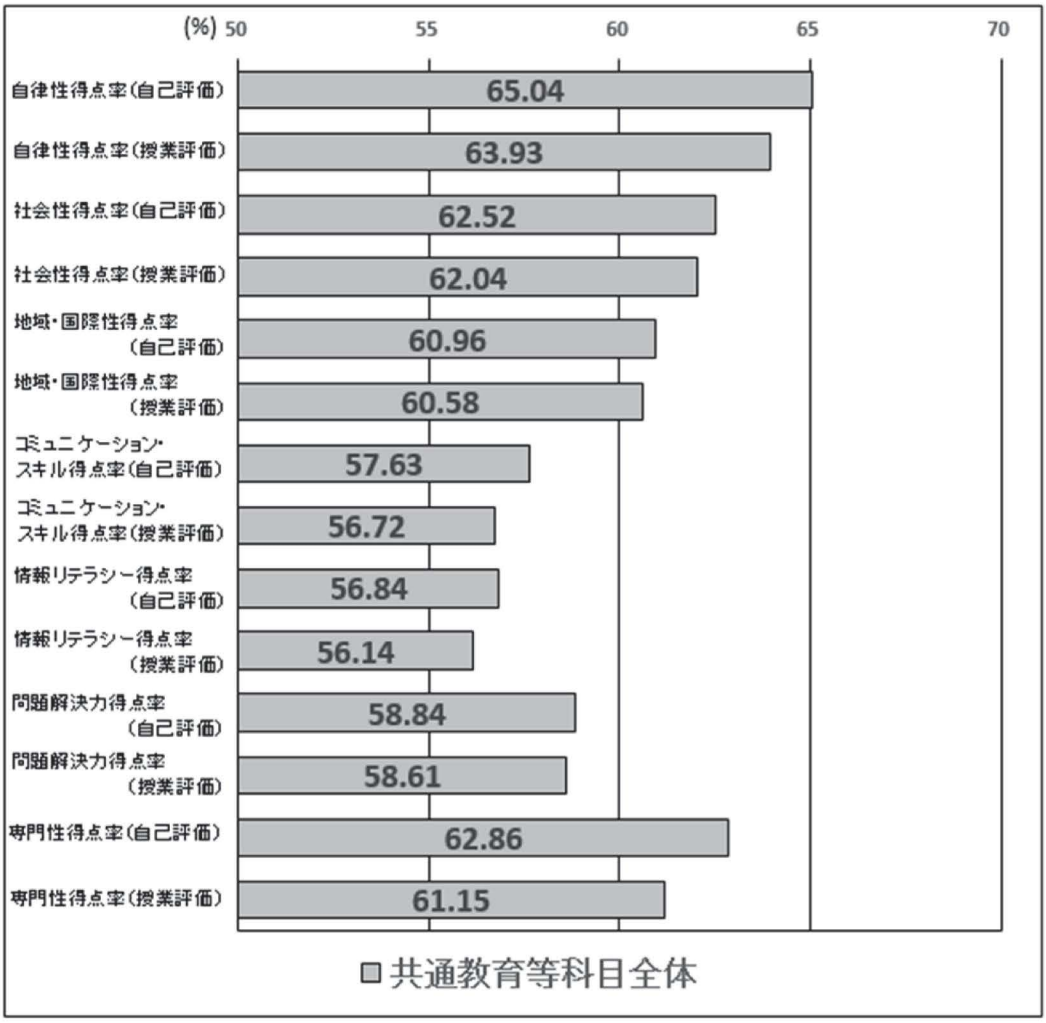


Figure 1　共通教育等科目全体における URGCC 学習教育目標平均得点率

3．2．2　URGCC 学習教育目標の平均得点率について

続いて，学習教育目標毎に，科目区分間の平均得点率を比較（F 検定）した。そして，各 URGCC 学習教育目標において「学生の自己評価」に関する質問項目の平均得点率と，「学生からの授業評価」に関する質問項目の平均得点率間の相関の強さを見るために，相関係数を算出した。なお分析において，科目区分から「日本語・日本事情」と，「健康運動系科目」は除外した。これらは他の科目区分と比べて度数がかなり少なく，また「日本語・日本事情」は外国人留学生のみを対象とした科目区分であり，一方「健康運動系科目」は実技主体の科目区分であるため，それぞれ他の科目区分とは条件が異なるからであった。一例として，「自律性得点率（自己評価）」について，これら 2 つの科目区分も含めた記述統計量を table 4 に示した。両者の科目区分のみ度数が 3 桁と少なく，また一方で得点率が他の科目区分よりも高かった。この傾向は，他全ての学習教育目標においても同様であった。これは上記の条件の違いが影響していると判断し，今回は報告から省略した。

Table 4　例示：「自律性（自己評価）」における全科目区分平均得点

自律性得点率(学生)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
日本語・日本事情	2014	504	76.64	18.88	25.00	100.00
人文系科目	2014	2581	59.59	22.30	0.00	100.00
社会系科目	2014	1943	57.51	22.82	0.00	100.00
自然系科目	2014	2024	57.99	21.94	0.00	100.00
健康運動系科目	2014	681	70.37	22.33	0.00	100.00
総合科目	2014	1365	64.41	21.76	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1148	60.65	22.71	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1052	62.19	21.90	0.00	100.00
外国語科目	2014	5065	63.81	21.96	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3467	56.83	22.97	0.00	100.00

検定の結果，全ての学習教育目標において，科目区分間の平均得点率に 1%水準で有意差が見られた（Figure 2～15，記述統計量は Table 5～18）。以下に，学習教育目標毎の結果を報告する。なお，Figure 2～15 は，各学習教育目標の平均得点率について各科目区分を降順に並べ替えている。

３．２．３　「自律性」平均得点率について

「自律性」を「原則として含める目標」としている科目区分はないが，全ての科目区分においてこれを「含めることを推奨とする目標」としている。そこで，「自律性」については，科目区分間の得点率全体を概観したい。

まず，「自律性得点率（自己評価）」について，Figure 2 において隣り合った科目区分間に有意差は見られなかった。しかし，2 つもしくは 3 つ以上離れた科目区分間には有意差が見られた。

Table 5　「自律性得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

自律性得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2581	59.59	22.30	0.00	100.00
社会系科目	2014	1943	57.51	22.82	0.00	100.00
自然系科目	2014	2024	57.99	21.94	0.00	100.00
総合科目	2014	1365	64.41	21.76	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1148	60.65	22.71	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1052	62.19	21.90	0.00	100.00
外国語科目	2014	5065	63.81	21.96	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3467	56.83	22.97	0.00	100.00

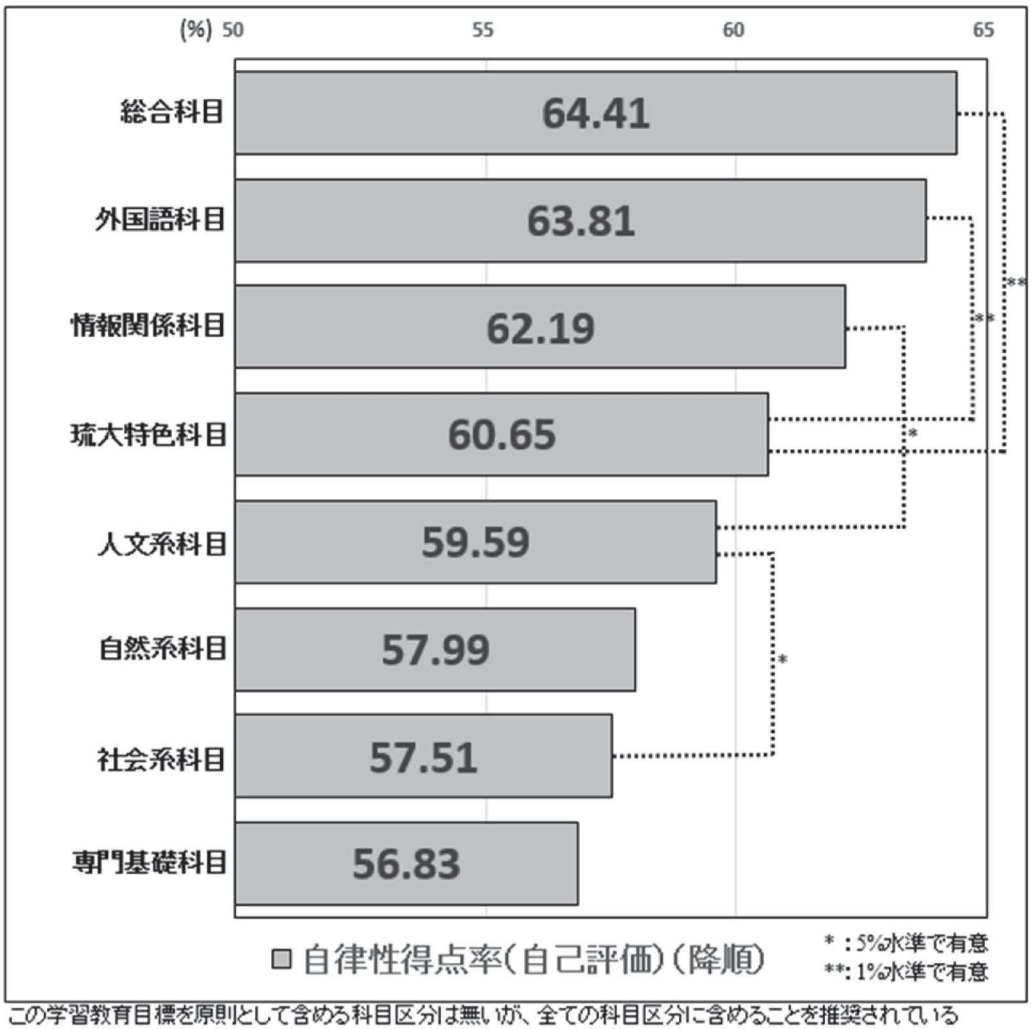
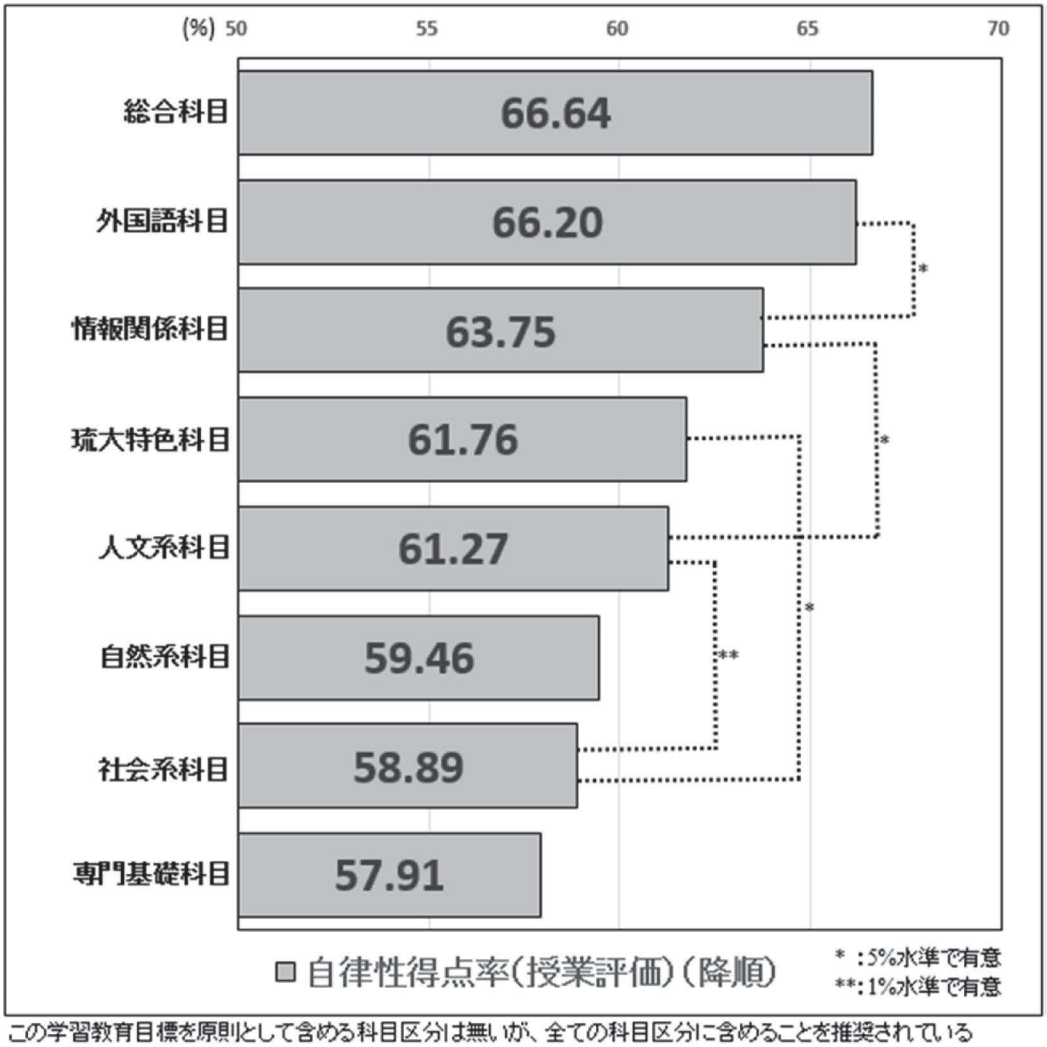


Figure 2　「自律性得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

次に，「自律性得点率（授業評価）」について，Figure 3 を見ていくと，こちらも，「外国語科目」と「情報関係科目」の二者間を除いて隣り合った科目区分間に有意差は見られず，また 2 つもしくは 3 つ以上離れた科目区分間には有意差が見られた。

Table 6　「自律性得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

自律性得点率(授業評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2583	61.27	22.19	0.00	100.00
社会系科目	2014	1945	58.89	22.66	0.00	100.00
自然系科目	2014	2021	59.46	21.81	0.00	100.00
総合科目	2014	1366	66.64	22.30	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1148	61.76	22.44	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1051	63.75	21.55	0.00	100.00
外国語科目	2014	5065	66.20	21.77	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3473	57.91	23.31	0.00	100.00



この学習教育目標を原則として含める科目区分は無いが、全ての科目区分に含めることを推奨されている

Figure 3　「自律性得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「自律性得点率（自己評価）」と「自律性得点率（授業評価）」は両者とも，降順での科目区分の並びは同じであり，そして 2 つもしくは 3 つ以上離れた科目区分間には有意差が見られた。また「自律性得点率（自己評価）」と「自律性得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.79（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．４　「社会性」平均得点率について

「社会性」を「原則として含める目標」としている科目区分は，「人文系科目」，「社会系科目」，及び「健康運動系科目」である。なお，「健康運動系科目」は前述の理由により本分析から除いている。ここでは，「人文系科目」と「社会系科目」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「社会性得点率（自己評価）」について Figure 4 を見ていくと，単純な降順では「人文系科目」は 3 番目に平均得点率が高く，もう一方の「社会系科目」は 2 番目に高かった。より詳細に見ていくと，「人文系科目」は最も平均得点率の高かった「総合科目」よりは有意に低いが，6 番目に位置する「外国語科目」以下の科目区分と比べて有意に高かった。もう一方の「社会系科目」は，「総合科目」よりは有意に低いが，5 番目に位置する「情報関係科目」以下の科目区分と比べて有意に高かった。また，「人文系科目」と「社会系科目」二者間に有意差は見られなかった。両者とも，単純な順位では上位 3 位以内に位置し，中位未満の科目区分より有意に高かった。

Table 7　「社会性得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

社会性得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2581	60.78	23.03	0.00	100.00
社会系科目	2014	1948	61.41	22.98	0.00	100.00
自然系科目	2014	2018	55.34	22.86	0.00	100.00
総合科目	2014	1367	64.90	22.18	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1151	60.77	24.05	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1049	58.48	22.92	0.00	100.00
外国語科目	2014	5066	58.48	23.27	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3379	49.77	24.86	0.00	100.00

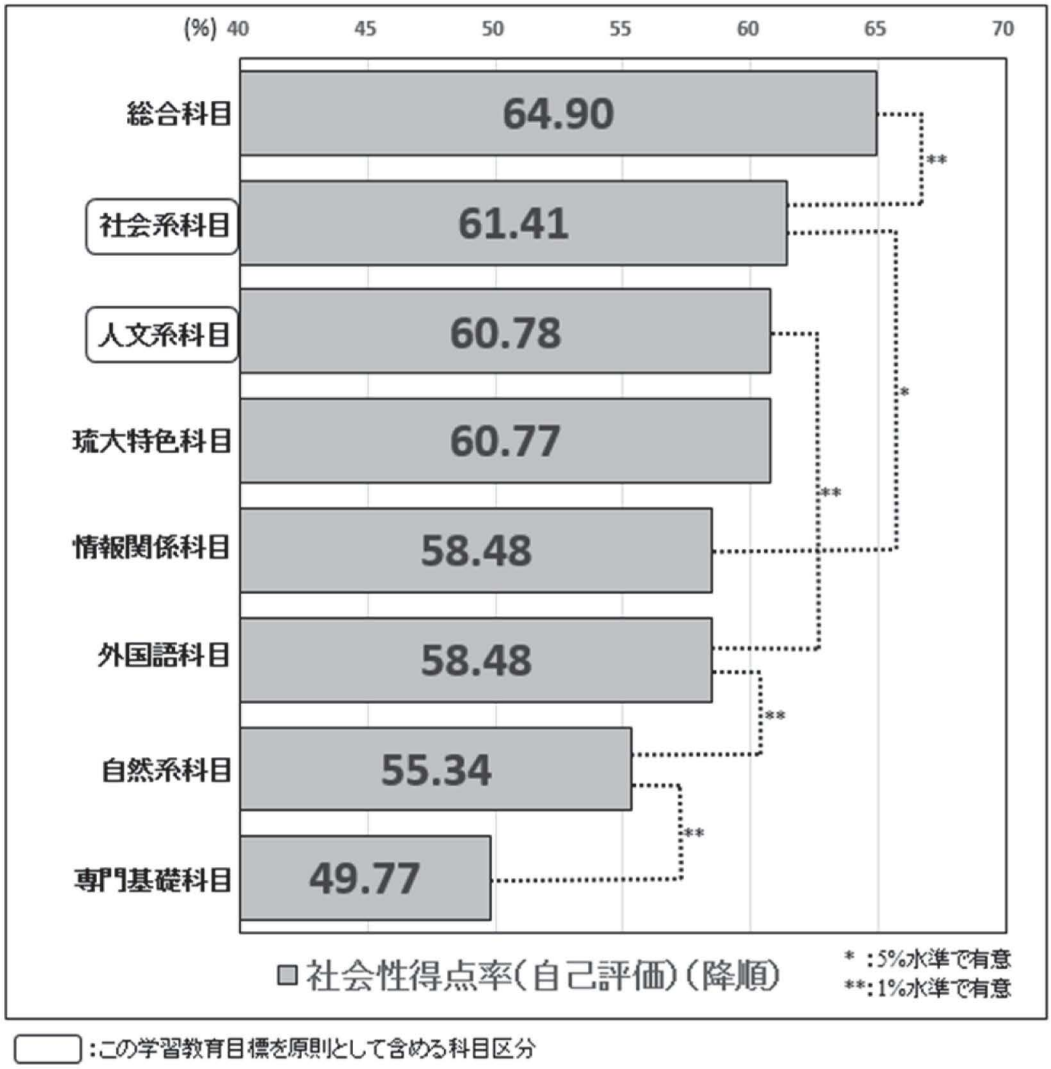
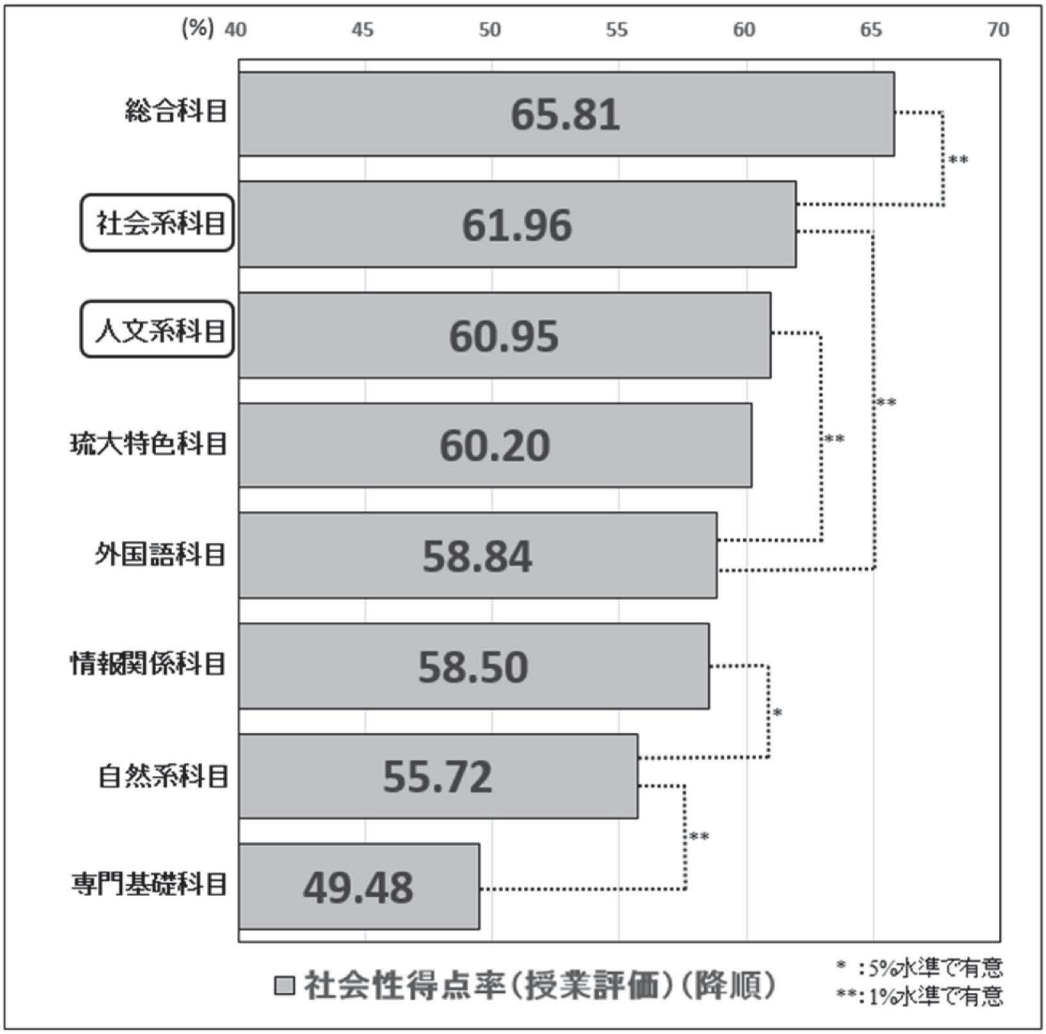


Figure 4　「社会性得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて，「社会性得点率（授業評価）について Figure 5 を見ていくと，単純な降順では「人文系科目」は 3 番目に平均得点率が高く，もう一方の「社会系科目」は 2 番目に高かった。より詳細に見ていくと，「人文系科目」は最も平均得点率の高かった総合科目よりは有意に低いが，5 番目に位置する「外国語科目」以下の科目区分と比べて有意に高かった。もう一方の「社会系科目」についても同様であった。また，「人文系科目」と「社会系科目」二者間に有意差は見られなかった。両者とも，単純な順位では上位 3 位以内に位置し，中位未満の科目区分より有意に高かった。

Table 8　「社会性得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

社会性得点率(授業評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2583	60.95	23.12	0.00	100.00
社会系科目	2014	1950	61.96	23.33	0.00	100.00
自然系科目	2014	2024	55.72	23.21	0.00	100.00
総合科目	2014	1368	65.81	22.59	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1150	60.20	24.08	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1050	58.50	23.74	0.00	100.00
外国語科目	2014	5055	58.84	23.73	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3382	49.48	24.64	0.00	100.00



□:この学習教育目標を原則として含める科目区分

Figure 5　「社会性得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「社会性得点率（自己評価）」と「社会性得点率（授業評価）」は両者とも，単純な降順での並び順がほぼ同じ（「外国語科目」と「情報関係科目」の順位が入れ替わるのみ）であり，そして「人文系科目」と「社会系科目」はその平均得点率が上位3位以内に位置し，かつ中位未満の科目区分より有意に高かった。また，「社会性得点率（自己評価）」と「社会性得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.84（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．５　「地域・国際性」平均得点率について

「地域・国際性」を「原則として含める目標」としている科目区分は，「琉大特色科目」，「外国語科目」，及び「日本語・日本事情」である。なお，「日本語・日本事情」は前述の理由により本分析から除いている。ここでは，「琉大特色科目」と「外国語科目」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「地域・国際性得点率（自己評価）」について Figure 6 を見ていくと，単純な降順では「琉大特色科目」は最も平均得点率が高く，もう一方の「外国語科目」は2番目に高かった。より詳細に見ていくと，「琉大特色科目」は他のいずれの科目区分の平均得点率よりも有意に高かった。もう一方の「外国語科目」は，最も平均得点率の高い「琉大特色科目」よりは有意に低く，2番目から5番目の高さである科目区分間とは有意差は見られなかったが，6番目に位置する「人文系科目」以下の科目区分と比べて有意に高かった。つまり，「琉大特色科目」は最も平均得点率が高く，「外国語科目」は中位から上位程度の得点率であった。

Table 9　「地域・国際性得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

地域・国際性得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2580	55.25	25.00	0.00	100.00
社会系科目	2014	1945	57.89	24.69	0.00	100.00
自然系科目	2014	2022	58.05	24.01	0.00	100.00
総合科目	2014	1366	57.63	24.07	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1151	65.20	23.78	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1048	49.09	24.05	0.00	100.00
外国語科目	2014	5071	58.36	24.80	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3373	47.29	25.26	0.00	100.00

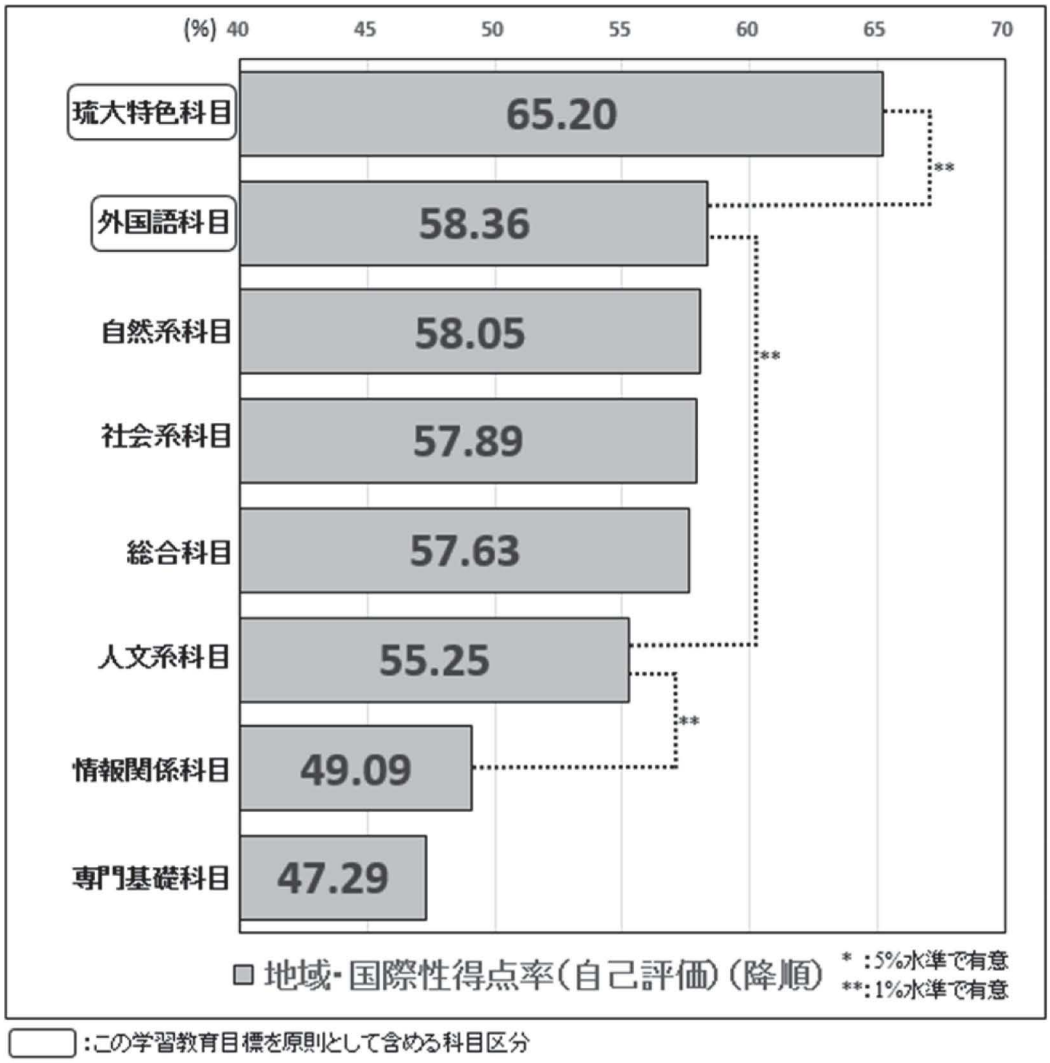


Figure 6　「地域・国際性得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて，「地域・国際性得点率（授業評価）」について Figure 7 を見ていくと，単純な降順では「琉大特色科目」は最も平均得点率が高く，もう一方の「外国語科目」は 4 番目に高かった。より詳細に見ていくと，「琉大特色科目」は他のいずれの科目区分の平均得点率よりも有意に高かった。もう一方の「外国語科目」は，最も平均得点率の高い「琉大特色科目」よりは有意に低く，2 番目から 5 番目の高さである科目区分間とは有意差が見られなかったが，6 番目に位置する「人文系科目」以下の科目区分と比べて有意に高かった。つまり，「琉大特色科目」は最も平均得点率が高く，「外国語科目」は中位から上位程度の得点率であった。

Table 10　「地域・国際性得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

地域・国際性得点率（授業評価）	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2581	55.47	24.76	0.00	100.00
社会系科目	2014	1942	59.59	24.69	0.00	100.00
自然系科目	2014	2023	59.34	24.47	0.00	100.00
総合科目	2014	1362	58.33	24.10	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1147	66.72	23.73	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1051	49.22	24.83	0.00	100.00
外国語科目	2014	5073	59.11	25.32	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3373	47.67	25.58	0.00	100.00

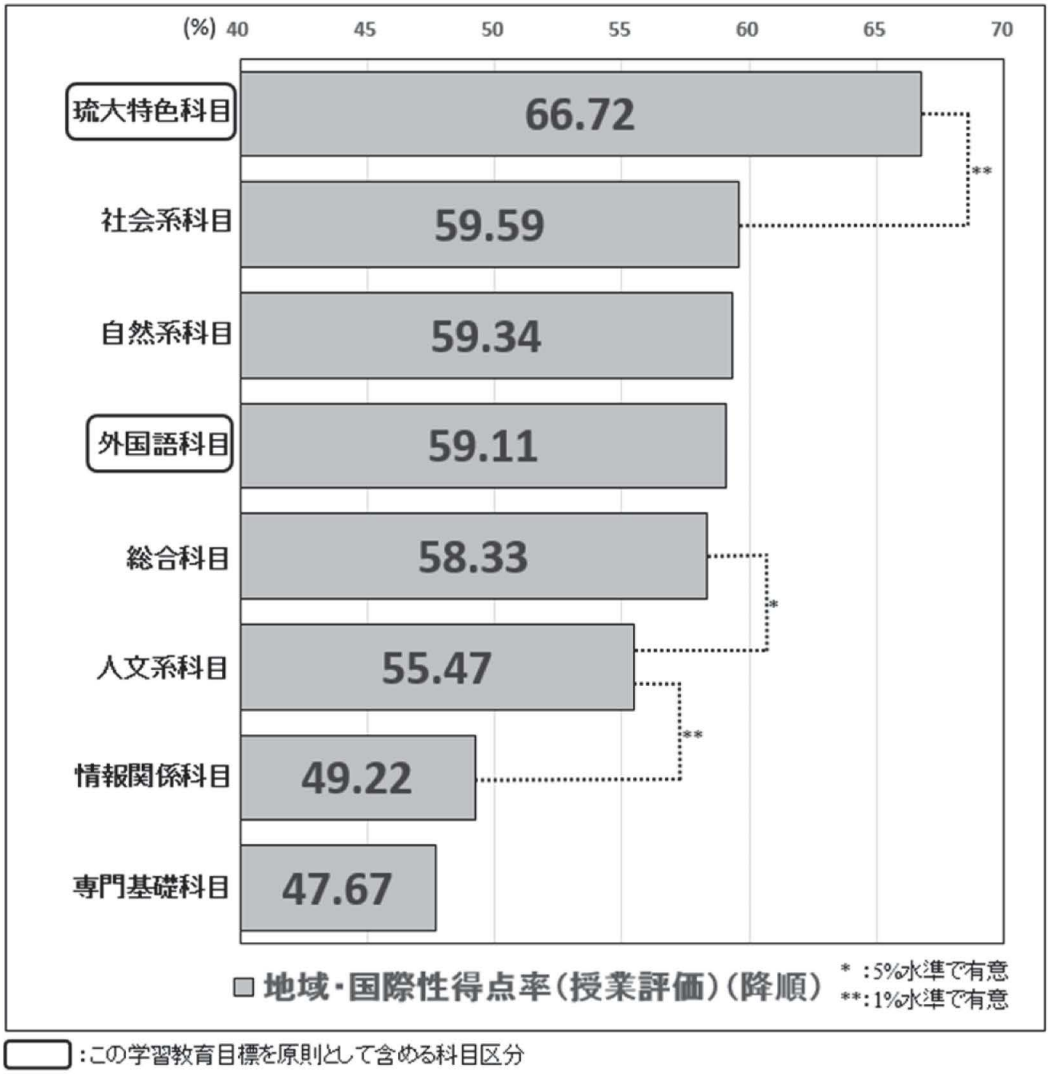


Figure 7　「地域・国際性得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「地域・国際性得点率（自己評価）」と「地域・国際性得点率（授業評価）」両者とも「琉大特色科目」が他のいずれの科目区分よりも平均得点率が有意に高く，もう一方の「外国語科目」は中位から上位程度の得点率であった。また，「地域・国際性得点率（自己評価）」と「地域・国際性得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.86（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．６　「コミュニケーション・スキル」平均得点率について

「コミュニケーション・スキル」を「原則として含める目標」としている科目区分は，「外国語科目」，及び「日本語・日本事情」である。なお，「日本語・日本事情」は前述の理由により本分析から除いている。ここでは「コミュニケーション・スキル」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「コミュニケーション・スキル得点率（自己評価）」について Figure 8 を見ていくと，「外国語科目」は他のいずれの科目区分よりも平均得点率が有意に高かった。

Table 11　「コミュニケーション・スキル得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

コミュニケーション・スキル得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2572	53.09	25.37	0.00	100.00
社会系科目	2014	1943	50.39	25.29	0.00	100.00
自然系科目	2014	2014	48.10	25.48	0.00	100.00
総合科目	2014	1365	55.48	25.40	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1142	54.84	26.17	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1053	56.03	25.20	0.00	100.00
外国語科目	2014	5087	69.60	22.25	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3465	46.27	25.51	0.00	100.00

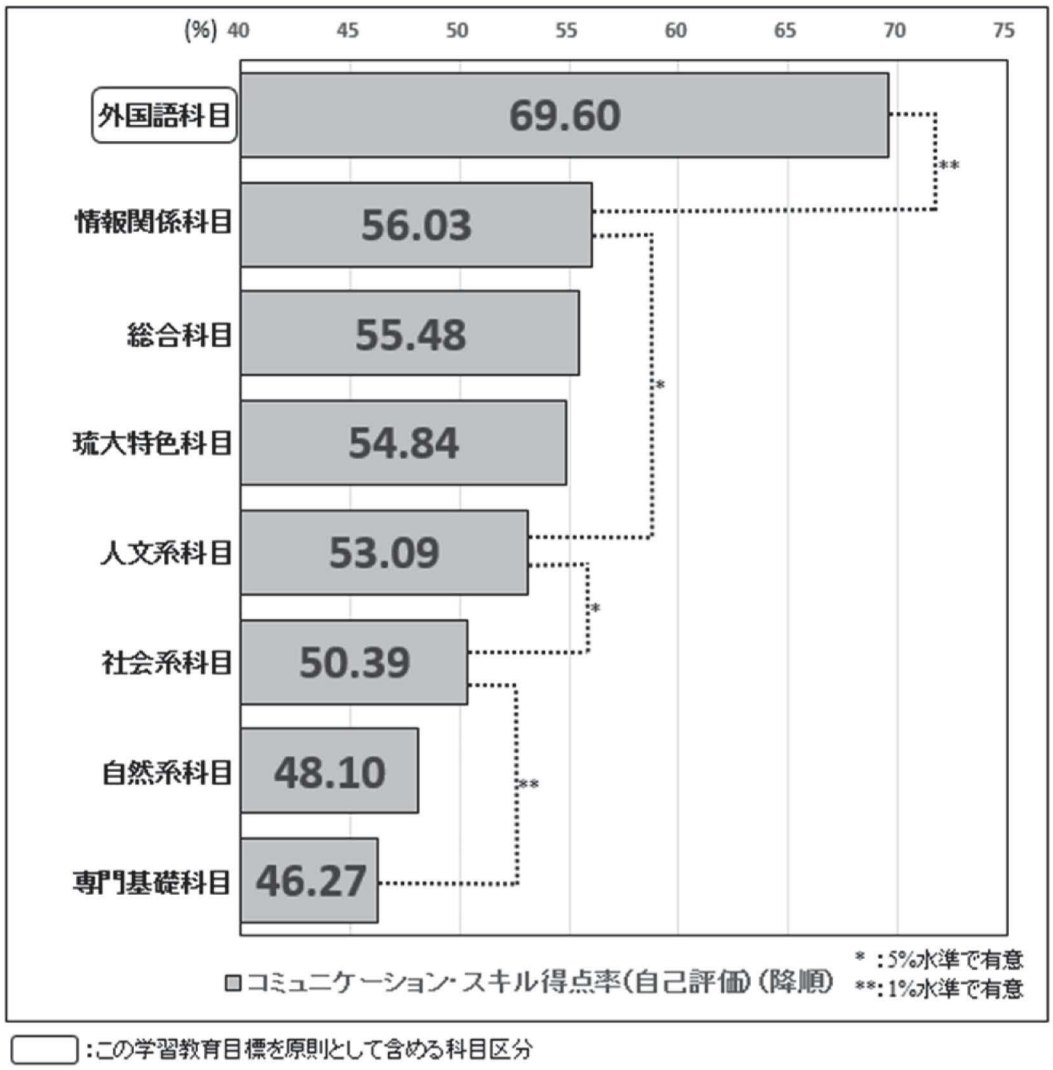
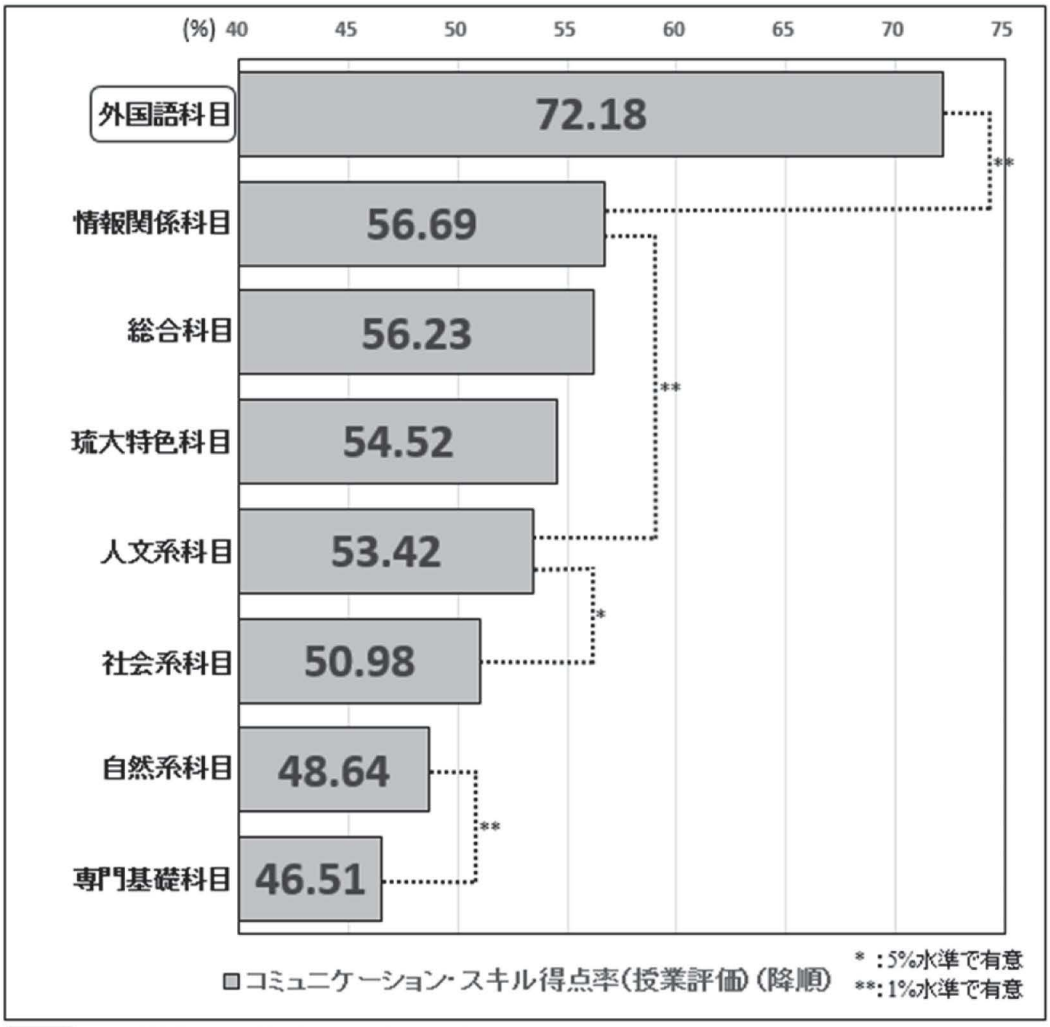


Figure 8　「コミュニケーション・スキル得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて，「コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）」について Figure 9 を見ていくと，「外国語科目」は他のいずれの科目区分よりも平均得点率が有意に高かった。

Table 12　「コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2573	53.42	25.41	0.00	100.00
社会系科目	2014	1938	50.98	25.61	0.00	100.00
自然系科目	2014	2015	48.64	25.67	0.00	100.00
総合科目	2014	1364	56.23	25.85	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1144	54.52	26.55	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1054	56.69	25.67	0.00	100.00
外国語科目	2014	5086	72.18	22.18	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3463	46.51	25.80	0.00	100.00



：この学習教育目標を原則として含める科目区分

Figure 9　「コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「コミュニケーション・スキル得点率（自己評価）」と「コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）」は両者とも「外国語科目」の平均得点率が他のいずれの科目区分よりも有意に高かった。また，「コミュニケーション・スキル得点率（自己評価）」と「コミュニケーション・スキル得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.88（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．７　「情報リテラシー」平均得点率について

「情報リテラシー」を「原則として含める目標」としている科目区分は，「情報関係科目」である。ここでは，「情報関係科目」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「情報リテラシー得点率（自己評価）」について Figure 10 を見ていくと，「情報関係科目」は他のいずれの科目区分よりも平均得点率が有意に高かった。

Table 13　「情報リテラシー得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

情報リテラシー得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2572	60.03	23.30	0.00	100.00
社会系科目	2014	1941	61.41	23.40	0.00	100.00
自然系科目	2014	2018	59.13	23.22	0.00	100.00
総合科目	2014	1365	64.58	21.95	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1145	61.03	23.70	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1058	69.47	23.28	0.00	100.00
外国語科目	2014	5055	61.16	22.68	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3377	53.07	24.76	0.00	100.00

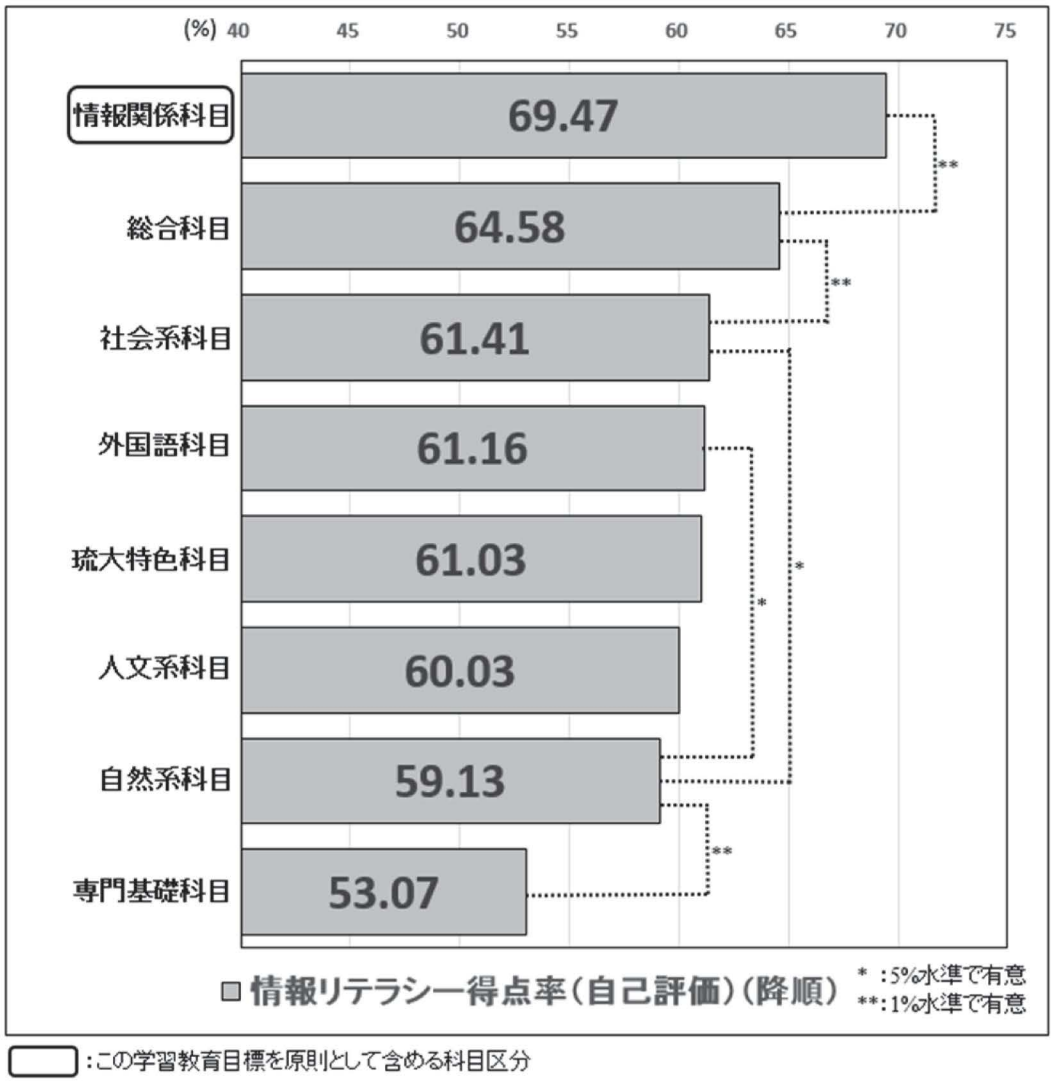


Figure 10　「情報リテラシー得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて，「情報リテラシー得点率（授業評価）」について Figure 11 を見ていくと，「情報関係科目」は他のいずれの科目区分よりも平均得点率が有意に高かった。

Table 14　「情報リテラシー得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

情報リテラシー得点率（授業評価）	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2571	59.87	23.20	0.00	100.00
社会系科目	2014	1938	62.27	23.46	0.00	100.00
自然系科目	2014	2014	59.11	23.06	0.00	100.00
総合科目	2014	1363	65.70	22.23	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1146	61.76	23.38	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1059	69.52	23.12	0.00	100.00
外国語科目	2014	5051	61.77	23.21	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3384	53.26	24.56	0.00	100.00

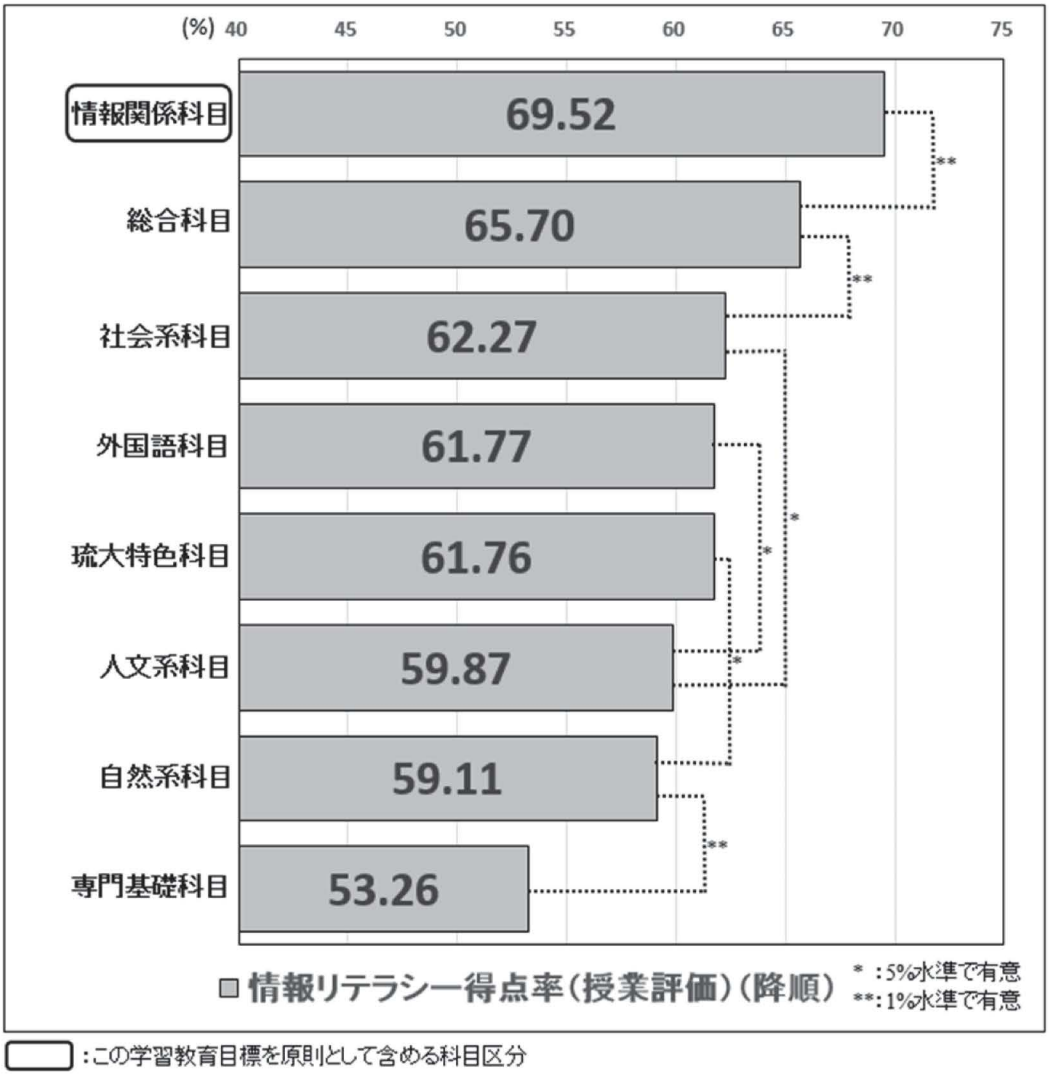


Figure 11　「情報リテラシー得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「情報リテラシー得点率（自己評価）」と「情報リテラシー得点率（授業評価）」は両者とも「情報関係科目」の平均得点率が他のいずれの科目区分よりも有意に高かった。また，「情報リテラシー得点率（自己評価）」と「情報リテラシー得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.86（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．８　「問題解決力」平均得点率について

「問題解決力」を「原則として含める目標」としている科目区分は，「自然系科目」，「総合科目」，「情報関係科目」，及び「専門基礎科目」である。ここでは，「自然系科目」，「総合科目」，「情報関係科目」，及び「専門基礎科目」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「問題解決力得点率（自己評価）」について Figure 12 を見ていくと，単純な降順では「自然系科目」は 6 番目に平均得点率が高く，「総合科目」は最も平均得点率が高く，「情報関係科目」は 3 番目に平均得点率が高く，そして「専門基礎科目」は最も平均得点率が低かった。より詳細に見ていくと，「自然系科目」は 3 番目に位置する「情報関係科目」以上の科目区分と比べて平均得点率が有意に低かったが，その他の科目区分と有意差は見られなかった。「総合科目」は 2 番目から 4 番目に高い，つまり「人文系科目」から「琉大特色科目」とは有意差が見られなかったが，5 番目に位置する「社会系科目」以下の科目区分と比べて平均得点率が有意に高かった。「情報関係科目」は，1 位「総合科目」から 5 位「社会系科目」の科目区分とは平均得点率に有意差が見られなかったが，6 番目に位置する「自然系科目」以下の科目区分より有意に高かった。「専門基礎科目」は，1 位「総合科目」から 4 位「琉大特色科目」よりも平均得点率が有意に低かったが，5 番目に位置する「社会系科目」以下の科目区分と有意差は見られなかった。また，この学習教育目標を「原則として含める目標」としている 4 つの科目区分間において，単純な降順では「総合科目」，「情報関係科目」，「自然系科目」，「専門基礎科目」の順に平均得点率が高かったが，「総合科目」は「情報関係科目」を除いた他 2 つの科目区分よりも有意に高く，「情報関係科目」も同じく 2 つの科目区分よりも有意に高かった。「自然系科目」と「専門基礎科目」の平均得点率間に有意差は見られなかった。

Table 15　「問題解決力得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

問題解決力得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2570	63.77	23.05	0.00	100.00
社会系科目	2014	1929	62.55	22.37	0.00	100.00
自然系科目	2014	2010	60.68	22.37	0.00	100.00
総合科目	2014	1357	65.36	22.01	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1147	62.95	22.96	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1054	63.61	22.19	0.00	100.00
外国語科目	2014	5056	60.47	22.60	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3482	59.08	23.70	0.00	100.00

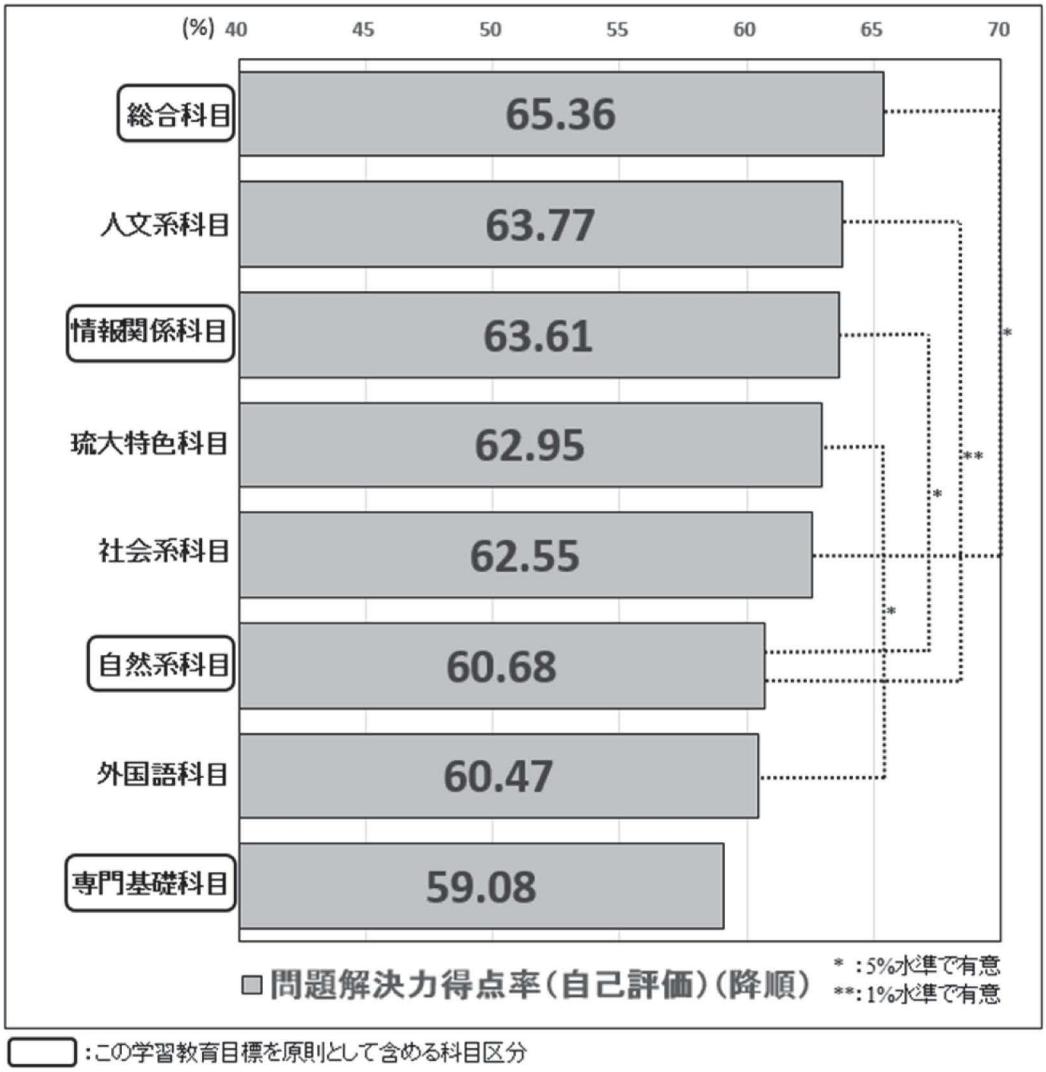


Figure 12　「問題解決力得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて,「問題解決力得点率（授業評価)」について Figure 13 を見ていくと，単純な降順では「自然系科目」は 7 番目に平均得点率が高く,「総合科目」は最も平均得点率が高く,「情報関係科目」は 2 番目に平均得点率が高く，そして「専門基礎科目」は最も平均得点率が低かった。より詳細に見ていくと,「自然系科目」は 1 位「総合科目」から 5 位「琉大特色科目」までの科目区分と比べて平均得点率が有意に低かったが，その他の科目区分とは有意差が見られなかった。「総合科目」は 2 位「情報関係科目」と比べて平均得点率に有意差は見られなかったが，3 位「人文系科目」以下の科目区分よりも有意に高かった。「情報関係科目」は 1 位「総合科目」から 5 位「琉大特色科目」と比べて平均得点率に有意差は見られなかったが，6 位「外国語科目」以下の科目区分よりも有意に高かった。そして「専門基礎科目」は 1 位「総合科目」から 6 位「外国語科目」と比べて平均得点率が有意に低かったが，7 位「自然系科目」とは有意差が見られなかった。

Table 16　「問題解決力得点率（授業評価)」における各科目区分の記述統計量

問題解決力得点率(授業評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2562	63.75	22.98	0.00	100.00
社会系科目	2014	1917	63.654	22.70	0.00	100.00
自然系科目	2014	2011	60.93	22.52	0.00	100.00
総合科目	2014	1361	66.35	22.24	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1145	63.646	22.73	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1053	64.17	22.32	0.00	100.00
外国語科目	2014	5046	61.05	22.88	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3475	59.33	23.68	0.00	100.00

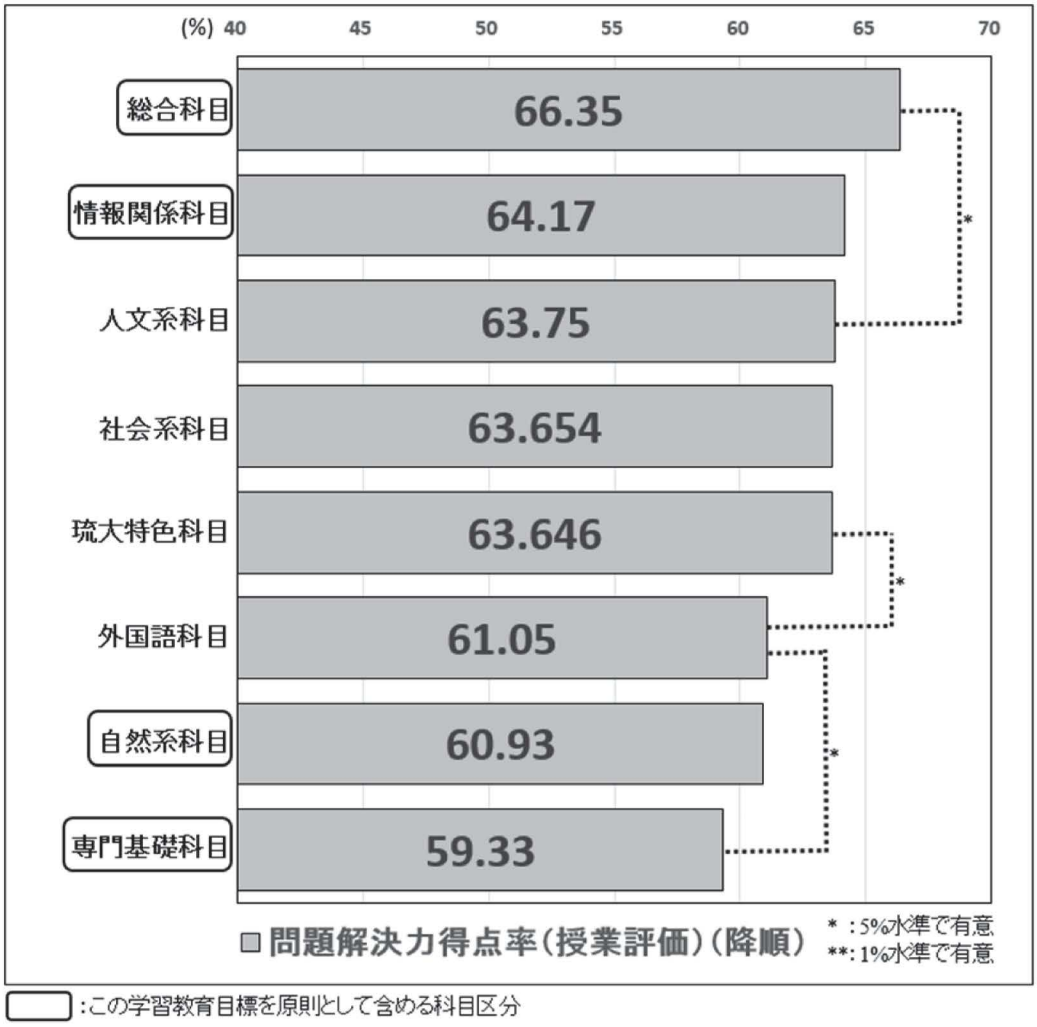


Figure 13　「問題解決力得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「問題解決力得点率（自己評価）」と「問題解決力得点率（授業評価）」は両者とも，「総合科目」と「情報関係科目」は中位から上位に位置し，一方，「自然系科目」と「専門基礎科目」は中位から下位に位置した。また，「問題解決力得点率（自己評価）」と「問題解決力得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.85（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

３．２．９　「専門性」平均得点率について

「専門性」を「原則として含める目標」としている科目区分はないが，「専門基礎科目」においてこれを「含めることを推奨する目標」としている。そこで，「専門基礎科目」の平均得点率を中心に結果を概観したい。

まず，「専門性得点率（自己評価）」について Figure 14 を見ていくと，単純な降順では「専門基礎科目」は 7 番目に平均得点率が高かった。より詳細に見ていくと，1 位「情報関係科目」及び 2 位「外国語科目」と比べて平均得点率が有意に低かったが，3 位「琉大特色科目」以下全ての科目区分とは有意差が見られなかった。

Table 17　「専門性得点率（自己評価）」における各科目区分の記述統計量

専門性得点率(自己評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2532	63.57	23.19	0.00	100.00
社会系科目	2014	1882	60.29	23.14	0.00	100.00
自然系科目	2014	1988	62.68	21.77	0.00	100.00
総合科目	2014	1357	63.63	22.56	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1137	63.74	23.47	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1045	67.56	22.48	0.00	100.00
外国語科目	2014	5004	64.50	23.18	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3453	62.06	23.52	0.00	100.00

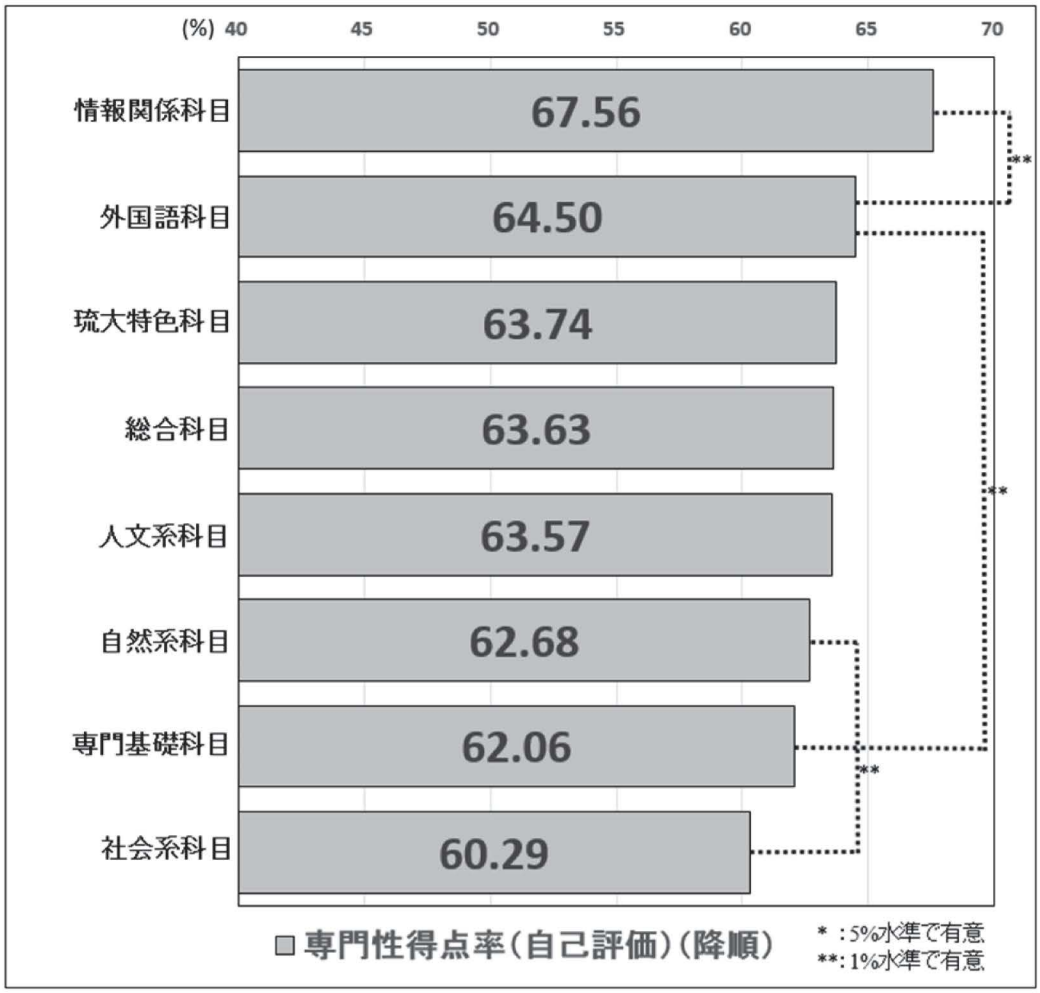
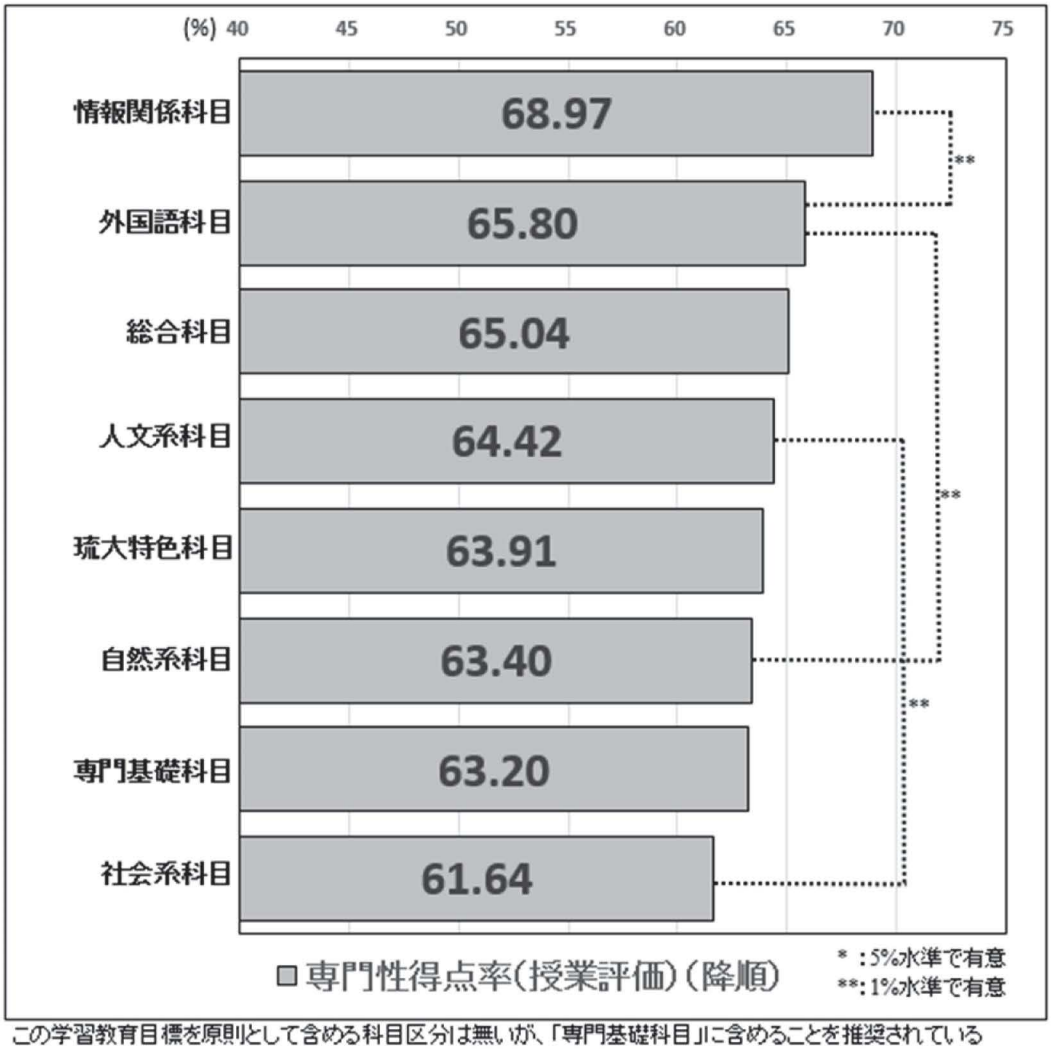


Figure 14　「専門性得点率（自己評価）」における各科目区分の平均得点率

続いて，「専門性得点率（授業評価）」について Figure 15 を見ていくと，単純な降順では「専門基礎科目」は 7 番目に平均得点率が高かった。より詳細に見ていくと，最も平均得点率の高かった「情報関係科目」と比べて有意に低かったが，2 位「外国語科目」以下全ての科目区分とは有意差が見られなかった。

Table 18　「専門性得点率（授業評価）」における各科目区分の記述統計量

専門性得点率(授業評価)	調査年度	度数	平均値(%)	標準偏差	最小値	最大値
人文系科目	2014	2492	64.42	23.35	0.00	100.00
社会系科目	2014	1836	61.64	23.25	0.00	100.00
自然系科目	2014	1952	63.40	22.11	0.00	100.00
総合科目	2014	1333	65.04	22.55	0.00	100.00
琉大特色科目	2014	1125	63.91	23.60	0.00	100.00
情報関係科目	2014	1028	68.97	22.77	0.00	100.00
外国語科目	2014	4931	65.80	23.26	0.00	100.00
専門基礎科目	2014	3397	63.20	23.44	0.00	100.00



この学習教育目標を原則として含める科目区分は無いが、「専門基礎科目」に含めることを推奨されている

Figure 15　「専門性得点率（授業評価）」における各科目区分の平均得点率

「専門性得点率（自己評価）」と「専門性得点率（授業評価）」は両者とも，単純な降順では「専門基礎科目」が 7 番目に位置した。そして上位の科目区分と比べて平均得点率が有意に低かったが，それ以下の科目区分とは有意差が見られなかった。また，「専門性得点率（自己評価）」と「専門性得点率（授業評価）」間の相関係数は r=.86（p<.01）であり，両者は高い正の相関を示した。

4．本報告のまとめ等

本報告は，平成 26 年度より「授業評価アンケート」に新設された URGCC に関する質問項目の回答状況，とりわけ各 URGCC 学習教育目標を「原則として含める目標」としている科目区分の平均得点率を中心に報告した。

4．1　各 URGCC 学習教育目標における科目区分毎の平均得点率について

「コミュニケーション・スキル（自己評価）」，「コミュニケーション・スキル（授業評価）」，「情報リテラシー（自己評価）」，「情報リテラシー（授業評価）」のように，「原則として含める目標」としている科目区分の平均得点率が，全ての科目区分の平均得点率の中で最も高いものもあれば，「社会性（自己評価）」，「社会性（授業評価）」，「地域・国際性（自己評価）」，「地域・国際性（授業評価）」のように中・上位程度に位置するもの，そして「問題解決力（自己評価）」，「問題解決力（授業評価）」のように上位から下位まで幅広く位置するものもあった等，URGCC 学習教育目標毎に平均得点率の分布は様々であった。これらを概観すると，各 URGCC 学習教育目標において，それを「原則として含める目標」としている科目区分の平均得点率は，全ての科目区分の平均得点率の中で概ね中・上位以上であったが，その一方で必ずしも平均得点率が高くないものもあった。また，「社会性（自己評価）」「社会性（授業評価）」において，これを「原則として含める目標」として含めている科目区分が上位に位置するにも関わらず，原則として含める目標ではない「総合科目」が最も平均得点率が高いという結果も見られた。これは，いわば教員側が意図していなかった「思わぬ効果」ではないだろうか。

4．2　「学生の自己評価」得点率と「学生からの授業評価」得点率間の相関

各 URGCC 学習教育目標において，「学生の自己評価」の得点率と「学生からの授業評価」の得点率間の相関係数を算出したが，全ての URGCC 学習教育目標において，これらは高い正の相関を示していた。つまり，学生は，自身がその授業を通してその URGCC 学習教育目標に関しての成長度が高いと主観的に判断していると，その授業がその URGCC 学習教育目標に関する学生の成長を促す構成になっていたと判断しているといえる。相関係数はあくまで二者間の相関の高さを示しているだけであり，因果関係は不明である。また，例えば単純に授業そのものへの満足度が高いと，両者も高くなる等，その他別の要因によりこれらの相関関係が示されている可能性もある。これについては今後因果関係を分析していく必要はあるだろう。また，「授業評価アン

ケート」は，学生の主観を回答してもらうものである。そのため，「教員側の本来のその授業での意図」や，「学生の客観的な成長」は直接的に見ることは出来ない。こういった本調査の限界を踏まえつつも，教員側がその「URGCC 学習教育目標の達成」を意識した授業作りを行うと，それは学生側にも伝わり，それに関する学生の成長につながる可能性が示唆されたといえるのではないだろうか。

４．３　終わりに

URGCC 学習教育目標は，本学学生が卒業までに達成することが目標とされている。したがって，単一の授業，単一の科目区分，そして共通教育等科目だけで全てが達成されるものではなく，専門科目も含めたカリキュラム全体を通して達成されるものである。ある科目区分やある科目において，その「原則として含める目標」以外の目標の得点率が低くなることは決して問題ではなく，むしろその科目区分・科目の特徴がよく表れていると考えられる。科目区分・科目毎に個性が異なり，それら多様な科目を学生が履修していく。さらに，専門科目の履修を通して，URGCC 学習教育目標と各学部・各学士教育プログラムの学習教育目標を通し，「琉球大学卒業生」となることが目指されている。その第一歩となる共通教育等科目について，このような道筋をたどることのできる構造となっているか確認・改善につながるためのツールの一つとして，本「授業評価アンケート」が今後機能することを願う。

「共通教育等科目授業評価アンケート」

この授業評価アンケートは、共通教育等科目の授業を担当している教員が、その授業内容・方法等を改善することを目指して実施するものです。この授業評価アンケートの結果は、今後の教育改善を図る目的にのみ使われ、あなたの成績に影響を及ぼすことはまったくありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。回答は選択肢から**もっともあてはまる**番号を**1つ**選んで、マークシート回答用紙の「回答マーク欄」の該当する数字を鉛筆（HB 又は B）でマークしてください。

I. 全体に関する質問

項目 A～G は全ての授業科目に共通した質問です。A～F については、全ての質問に回答してください。

A. 所属学部について

１．あなたの所属学部はどこですか。

選択肢：１．法文学部　２．観光産業科学部　３．教育学部　４．理学部
５．医学部　６．工学部　７．農学部　８．科目等履修生

項目 B～F の質問にたいする回答の選択肢は下記の通りです。
（選択肢：１．全くそう思わない　２．そう思わない　３．どちらとも言えない　４．そう思う　５．強くそう思う）

B. 学生自身の受講態度及び基礎知識について

２．この授業はもともと興味のあった科目である。
３．私のこの授業の出席率はよかった。
４．私は、興味を持って積極的にこの授業に参加した。
５．この授業についての私の基礎知識（予習を含む）は十分であった。

C. シラバスについて

６．授業はシラバス通りに進められた。
７．シラバスは受講決定や事前学習に役立った。

D. 授業方法について

８．　使用したテキストや補助教材は適切であった。
９．　教員の説明は分かりやすかった。
１０．教員は学生を積極的に授業に参加させていた。
１１．授業の開始・終了時間は適切であった。

E. 授業の内容について

１２．目的や趣旨がはっきりしていて、体系化された授業であった。
１３．教養や見識を養ううえで、あるいは、技能等を身につけるうえで、得るところの多い授業であった。
１４．学問に対する見方や考え方を深く学ぶことができた。
１５．この授業についていけた。

F. 授業の総合評価について

１６．心に残る良い授業であった。
１７．「大学で学んでいる」という実感がわく授業であった。
１８．この授業を受けて、学問に対する興味が増した。
１９．この授業を他の学生にも薦めたい。
２０．シラバス等に記されている達成目標に私は到達できた。
２１．総合的に判断してこの授業に満足している。

G. 下記の事項について自由に答えてください。

２２．この授業で特に良かった点、また印象に残った点があればマークシート「回答用紙」裏面の記述 A 欄に書いてください。
２３．施設・設備を含めて、この授業で改善すべき点があればマークシート「回答用紙」裏面の記述 B 欄に書いてください。

＊＊裏面へ続く＊＊

II. URGCC 学習教育目標に関する質問

H～N については、全ての質問に回答してください。

項目 H～N は、URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）の学習教育目標に関する質問です。質問に対する回答の選択肢は下記の通りです。
（選択肢：１．全くそう思わない　２．そう思わない　３．どちらとも言えない　４．そう思う　５．強くそう思う）

H. 自律性

２４．この授業を通して、以前に比べ、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになった。

２５．この授業は、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになることを意図して構成されていた。

I. 社会性

２６．この授業を通して、以前に比べ、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになった。

２７．この授業は、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できるようになることを意図して構成されていた。

J. 地域・国際性

２８．この授業を通して、以前に比べ、地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができるようになった。

２９．この授業は、地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができるようになることを意図して構成されていた。

K. コミュニケーション・スキル

３０．この授業を通して、以前に比べ、言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになった。

３１．この授業は、言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになることを意図して構成されていた。

L. 情報リテラシー

３２．この授業を通して、以前に比べ、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになった。

３３．この授業は、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができるようになることを意図して構成されていた。

M. 問題解決力

３４．この授業を通して、以前に比べ、批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになった。

３５．この授業は、批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになることを意図して構成されていた。

N. 専門性

３６．この授業を通して、以前に比べ、専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができるようになった。

３７．この授業は、専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができるようになることを意図して構成されていた。